

■米シリコンバレーの投資銀行でインターンシップ(就業体験)を経験し、現在のキャリアにつながる大きな影響を受けた。

マサチューセッツ工科大学(MIT)への1年目の留学が終わった後、ロバートソン・ステイブンスという投資銀行でサマージョブ(インターン)をしました。シリコンバレーにあるハイテク企業に特化した投資銀行です。大した仕事はしませんでした。そこでの約3カ月間の経験が、結果的にその後の私のキャリアに大きく影響することになりました。

ロバートソン・ステイブンスは、ベンチャーキャピタルやベンチャー企業、投資家といったベンチャー市場を取り巻くすべてのプレーヤーのハブの役割を果たしている

投資銀行の体験、今の力に



会社でした。いわばベンチャー市場の全体を動かす核です。そうした会社の存在を知らなかったので、印象は非常に鮮烈でした。私が今、エス・アイ・ピーでやるうとしていることは、簡単に言うとロバートソン・ステイブンスのアジア版を作ることです。日本にはそうした役割を持つ会社はありません。道半ばですが、なんとか成し遂げたい思いでやっています。

サマージョブでもう一つ良かったのは、米国人と毎日仕事をしたこと。会話で関係代名詞が使えるようになったことです。

MITでの2年目は、ベンチャー企業の経営に関する授業を集中的に履修しました。ビジネスプランを作ったり、ベンチャー企業に派遣されて短期間働いたりと実践的なトレーニングを積みました。授業名は忘れてしまいましたが、イノベーションの歴史を学ぶ授業があり、非常に印象に残っています。冷蔵庫はニューヨークのハドソン川に氷を流したところから始まったとか、興味深い話ばかりでした。その授業で学んだ、イノベーションを大きな視点からとらえるという考え方は今でもビジネスを展開していく上で大変役に立っています。私にとっ

ては100点満点の2年間でした。

(聞き手は猪瀬聖へフリジャーナリスト)

日経Bizアカデミーより転載